

## 会議の概要

会議名	宝塚市食育推進会議 第3回 会議
開催日時	平成22年(2010年)10月22日(金)午後2時～午後4時
開催場所	宝塚市役所3階 3-3会議室
出席委員	委員16名 保田委員、嶋津委員、藤田委員、松本委員、岡本委員、北山委員、中野委員、中村委員、藤野委員、藪内委員、山本委員、和田委員、井上委員、奥村委員、北井委員、皆木委員
欠席委員	委員 3名 山下委員、林委員、松田委員
傍聴者数	1名
公開の可否	公開
	<p>○ 動議</p> <p>「1 報告」前に、委員から動議が出される。</p> <p>(委員)</p> <p>議事に入る前に、事務局側に確認したいことがある。</p> <p>この素案はどのような扱いにするのか。市民に読んでもらうために、どこかの場所へ置くのか、市民に配布するのか、教えて欲しい。素案を読み込んでいくと、誰が読むことを前提にしているのかわからない。</p> <p>この会議は、素案の中の文言で、この部分をこう変えるという個人的な意見を述べるものではなく、もっと議論のできる場だと思っていた。そうではなかったため不思議に思っている。</p> <p>市民に読んでもらうのであれば、イラストの使い方がおかしい。適当なイラストがなかったのであれば、初めから使用しないで欲しい。給食の場面を出したいのであれば、直接学校へ行き給食の献立を写真に撮れば良い、西谷のことをわかりやすく書きたいのであれば、西谷の写真を撮れば良いと考える。そのようなものが、市民にとってわかりやすい計画書になるのではないかと思う。</p> <p>誰のための素案なのか。市民レベルと感覚がずれていると思った。他の人に素案を読んでもらっても、誰が読む計画なのかと聞かれ、気になったので教えて欲しい。</p> <p>何をするために会議に行っているのかといえば、市民の意見を聞きましたといいながら、素案の文言修正をするだけである。我々委員が会議に参加することによって、高いお金が支払われている。もらう側でもあるが、実際は払う側でもある。素案の文言修正のために19人も必要なのか。そのようなことを他の人にも言われた。事務局側に言いたい。</p> <p>これは、当たり前の市民レベルの意識ではないかと思う。よく考えていただきたい。</p> <p>(会長)</p> <p>今の意見は、直接事務局に指示する内容ではない。</p> <p>動議という形で出されたと思いますので、委員の中で今の意見に指示される方はいますか。</p>

(委員)

支持します。

(会長)

他の委員から支持がありましたので、案件にさせていただきます。

まず、この素案は誰が読むのか、事務局から、見解を述べていただきたい。

(事務局)

素案P2「2 計画の位置づけ」1～3行目に記載されているが、この計画は、行政として作成していくが、中身については、市民にご理解いただく前提で作るというものである。市民に読んで理解していただきやすい中身にしていくものと考えている。

(会長)

提案者の方、いかがですか。

(委員)

ということは、もう少し読みやすい素案に変えていただけるのか。

言い方は悪いが、この素案は非常に読みにくい。

イラストの使い方が悪く、全体的に平板なので読む気がうせる。紙面デザインの工夫が全くされていない。

中身が良いのに、デザインが悪いのは、非常に残念である。

(会長)

そこは、案件の審議でご提案いただきたい。

(委員)

資料1に食育基本法の概要と書いてある。我々は市長から食育推進会議の委員として推薦されている。これは条例として認められるようになるのか。条例として認められるのであれば、当然市民のためであるが、条例化するのであれば事務局も提案があるのではないか。条例というのあれば法律になってくるのではないか。

(事務局)

「食育推進計画」については、素案P2の「食育基本法」に基づいて策定するように努めなければならないとされている。

食育推進会議の根拠が条例となっている。条例の根拠に基づいたこの会議で策定していただく流れとなっている。

(会長)

大元に食育基本法があり、その中で各市町村に食育計画を策定するようにとなっている。宝塚市でも策定してもらわなければならないという経緯がある。宝塚市では県下では遅いほうである。

今の発言は動議という形で、整理していただきたい。

議題及び結果  
の概要

1 報告

宝塚市食育推進会議 第2回会議 議事録(案)について (資料1)

第2回会議 議事録(案)における発言記録について修正箇所はありますか。

- ・ P15 下から11行目  
東京都民が肉を食べれば数値はすぐにあがります。  
→ 東京都民が肉を食べなくなれば数値はすぐにあがります。
- ・ P18 14行目  
化そう水 → 仮想水
- ・ P22 下から13・14行目  
感心 → 関心

以上3点を事務局で訂正することを前提に、宝塚市食育推進会議 第2回会議 議事録について、委員から了解をいただく。

2 議事

宝塚市食育推進計画 素案について

(事務局)

事務局から、資料(資料1～5、追加資料1)について、説明  
前回の会議でのご意見を受け、食育推進計画検討会に図りながら、回答を  
まとめご提案させていただきます。よろしく申し上げます。

(会長)

事務局から説明のあった素案(1～5、追加資料1)の修正案について、何  
か追加発言はないか。

(委員)

資料3 修正にいらなかった理由の中に、食育は「食」だけでいいのか。  
「飲」の問題を取り上げてはどうか。とあるが、前回の議事録の中で、お茶や  
スポーツドリンク等、特定の飲み物のことが言われていたが、私が書いて欲し  
かったのは、「食べる」「飲む」を重要視するのであれば、宝塚市ができるこ  
ととして、「安心して飲める安全な水道水を提供することを心がける。」とい  
う一文を入れて欲しい。飲み物は必ず水道を使うので、食と飲み物といえば  
必ず水道水ある。水道局の方が聞けばそういわれると思う。

飲み物に関しては、安全な水道水を飲んでいる事を入れて欲しい。

人気のあるメニュー、ないメニューについて、説明にあったような理由であ  
れば載せる必要はないと思った。

そのかわりに、素案P35～P37にかけて、学校給食のことが取り上げられ  
ているが、その中に、新聞にも記載されていたが、宝塚での学校給食の歴史  
は非常に誇るべきものである。時に中学校も給食は早くから取り組まれてお  
り、中学校も給食はまわりの市を見ても珍しい。県下でも実施率は50%き

ている。なかなかないことである。誇れるべきところは誇っていくことが、宝塚市らしさ出すことではないかと考える。

素案P35「豆知識」に載っている「学校給食の歴史」は本文の中に入れるべきではないか。

アバウトだが、小学校の給食開始が何年、中学校が何年、中学校では今も給食が実施されていることが、素案の中に書かれていれば、多くの方が知ることができる。現場の力付けにもなる。

「人気のあるメニュー、ないメニュー」よりも、現実的に書くとしたら、残渣軽減を改善する方法を模索して、食に対してもったいない意識を植え付けるための食育であるとして書いてはどうか。

残渣率は、どこの学校も計算しているはずである。これこそ表にできるのではないか。残渣率の軽減をはかり、それによって、好き嫌いをなく食べたり、もったいない意識を伝えることを給食の中で伝えていくことが、根本的に必要ではないかと思う。

(事務局)

安全な水道水の件については、現在宝塚市では安全な水道水を提供させていただいていると思う。それをさらにここへ書き込むということは、どのような意図で書き込ませていただいたらよいのか。

(委員)

水道の歴史のことをご存知な方は、わかると思うが、宝塚市は1970年に斑状歯の問題が起こった。それは宝塚市が怠慢していたわけではない。もともと宝塚市はフッ素が高い地域にあったが、そのフッ素軽減技術がなかったために、フッ素過多になって斑状歯になった。

それ以降、水道局が努力をされ、軽減された。宝塚の広報にフッ素濃度が記載されているのは、水道局の熱い思いであり、これだけ安全であるという証拠を示していると考ええる。

食べる中に、安全な水道水という言葉は盛り込むべきだと考える。

(事務局)

そのあたりの事情も知った上でこの計画は書いている。未来について書かせていただいております、過去の現状についてどこで書き込むかは、この会議で検討していただきたい。

(会長)

今の委員の意見を前向きに受けさせてもらおうと、果糖飲料やスポーツ飲料を飲むよりも、水道水の方がいいというような書きぶりでもいいのではないかとこの風に読み取れた。

果糖飲料やスポーツ飲料が悪いとは、ここでは書きにくいと思う。市販の飲み物に勝る飲み物は水道水だというような書き方でもいいのではないかとこの提案で聞いてもらってはどうか。

その内容を書くのかどうかは、事務局で一度検討してもらいたい。

今の若い母親は、「水は危険」と思い、危険な果糖飲料やスポーツ飲料を飲んでいる。それならば水道水を飲んだ方がよいのではないか。そのような

ことが委員の趣旨と考える。

飲み物を謳うのであれば、水道水を謳えばよいのではないかという意見があったとして検討してもらいたい。

(事務局)

飲み物に関しては、すべて食事の中に含んで考えている。

(委員)

この一文が入ったからといって、大きく変わることはないと思う。  
安全な水道水を提供していますということを、素案に一文入れてもらえばよい。

(会長)

どこかで、飲み物のことを記載しているのであれば、市販の飲み物より水道水の方がいいのではないかという書きぶりがあってもいいのではないかという提案なので、一度検討してみて欲しい。

学校給食の歴史については、豆知識ではなく、素案の本文に盛り込んだ方がよいという提案について、事務局の意見はあるか。

(事務局)

素案P37 3行目に、中学校での学校給食の実施については、我々も珍しいことで、PRしたいと思い、既に盛り込んでいる。

(委員)

現在の素案の書きぶりでは弱いと考えるから発言をした。豆知識も書かれている4行を素案の本文に書き込み、豆知識を削れば良いと考える。

学校給食の歴史については、重要な内容である。豆知識は読み飛ばすことがあるので、まとめて本文に入れるほうが、インパクトがあると思う。

インパクトのある読み方をさせた方が良いと思う。

(会長)

どちらの方が、強調できるか、検討していただきたい。

(委員)

資料2 P7 学校給食について

「米飯給食の自校炊飯に取り組み、全校で実施したときには米飯給食回数増加を推進」と回答されているが、なぜ全校実施の後でなければならぬのか。先に準備の整った所からやるのではダメなのか。

(事務局)

本市では、統一献立を実施している。

自校炊飯にした学校から実施すると、全体の公平性に欠けると考える。

我々としては、全校実施した後で実施していきたいと考えている。

(委員)

パンかご飯の違いだけで、統一献立というのは、何もかも一緒にしなければならないのか。

おかずは一緒ではないのか。パンがご飯に変わるだけではないか。

(委員)

パンの場合とご飯の場合では、おかずが違う。

発注がバラバラになるため、発注業者が3業者から6業者になったり、手続きが非常に大変になると思う。

(委員)

子どもの健康を考えて行っていく食育だと考える。手続きが大変という問題ではない。

(委員)

この間も給食材料費だけでコストがどのくらいかかるという問題があったが、逆に言えばご飯になるともっとコストは高くなるわけである。

限りなくお金が使えるのであれば、いくらでも良いものは提供できると思うが、そのあたりは、行政サービスの限界もある。

(会長)

将来的にどうするかである。

曖昧といえば曖昧であるが、「明日から絶対統一献立で米飯給食にしてい

くのだ」という計画づくりでない。

宝塚市は全県下から見ると、まだいい線をいっている方であると考え

る。さらにいい線に持っていくように、熱い思いを謳ってもらいたい。

(委員)

近い将来は、実現するのでははないか。

(会長)

書きふりが不満であるならば、どのようにすればよいか、提案いただきたい。事務局が受け止められることができるかどうかは次回の案になって返ってくるということで了解いただきたい。

事務局もいろいろと検討した上で回答しているので、ご不満に思うかも知れない。事務局側も委員の熱い思いをどう盛り込めるか、もう一度検討いただきたい。

(委員)

資料2 P1 イラストについて

和食のイラスト「ご飯と味噌汁」については、日本の基本的な食事と表現されている。食育の中では、ご飯の大切さ、食事のマナーやあり方を教えてきている。

単純作業で載せられるのであれば、日本食の写真又はイラスト等を入れて欲しい。

(事務局)

素案を作成する際、著作権にかからないようなイラストを選んだ。イラストを持ってこれがあるべき姿という認識が、事務局にはなかった。より市民の方に馴染むために、イラストの使い方については、検討させてもらいたい。

(委員)

イラストの使い方というより、逆に書かれていたことが問題。ご飯と味噌汁の位置関係の違いがあった。

この会議は、食育推進会議である。食育という大きな枠の中で行っていくことである。

給食も大事だが、給食や水道水がどうと言うよりも、食事全般が大切と考える。その為の食育推進委員である。そのあたりの食育の捉え方をもう一度考えてもらいたい。

(委員)

私はイラストレーターなので職業柄余計言わせていただいている。このようなものを見た時に、どうしてもイラストの使い方がこのようになるのは仕方ないと思う。

写真の代用の方が簡単である。撮って来て、白黒で貼り付けるだけでよい。小さくても載せることが可能である。

著作権フリーのイラストからとることが悪いことではないが、宝塚らしさを出すのであれば、写真を載せる方が良いと考える。

(会長)

親近感を持つための工夫と受け止めて欲しい。

誰かが書いたイラストをつかうのではなく、地元の風景を使うなり、時間が許せばそのような工夫を討って欲しい。

いろいろな立場から発言をいただいている。貴重な意見をいただいているとうけとめている。

素案P15「食を取り巻く課題」については、国の現状だということで今回の修正案では削除してしまうとのことであったが、何かを作る時には、何か問題があるから計画は作るものなので、問題をおさえた方がいい。国の課題を宝塚市の課題として置き換えて記載した方がよい。

宝塚市の問題の主なものをピックアップして書いて欲しい。その象徴として、それを解決する方法として、この計画を書いて欲しい。そのような流れの方が、計画としてふさわしいと思う。そのような対応を検討して欲しい。

(事務局)

課題なしの計画

(委員)

資料2 P6の「共食」について

宝塚の人口は約20万人強。内20%が年寄りである。そのうち1万人が現在要介護を受けている。そのような状況の中で、地域の中での場作りという

ことだけで、要介護者のことは放っておいていいというのは疑問である。

今後在宅医療を一生懸命にやれと国の方では言っている。今後4人に1人が寝たきりになっていく。家でめんどろを見なければならぬ時に、食事ができる人はよいが、経管栄養のために胃漏をたてたり、そのような人はほとんど外されていく。介護認定でも落とされ、値段が安くなっている。

食育とは離れているかもしれないが、75歳以上の年寄りについて国はどのように考えているのか疑問である。今まで一生懸命に生きてこられた人に対し我々はどうすべきかという問題について、全然対応が難しい。要介護者や寝たきりという言葉でなくてもよい、お年寄りについてももう少し書くことがあるのではないかと考える。

具体的に「おたっし健康講座、高齢者の栄養改善、口腔機能の向上、地域における共食」ということだけでいいのか検討して欲しい。

(会長)

食育という言葉に年齢層をどこまでイメージするか。

食育は、親が子どもに施す生きる力の教育が食育のイメージであるが、今まで生きてきた人も、実はなかなか正しい食べ方ができなくなっている。そのような人に対する配慮も実は必要になるのかもしれない。

それを誰がどこでどう施すのかということも極めて難しいことある。それが謳えるかどうか。

社会の問題であるのは事実であるが、「食育」の中にそれを謳い込めるか、謳った方が望ましいと思うが、なかなか難しいことである。

食の教育なので、子どもに生きる力を教えることが基本的な目標である。正しく食べられなくなった高齢者を、どのようにこの中に入れ込むことが可能かである。なかなか難しいことである。

検討して欲しい。

(委員)

知らないふりをするわけではないが、食育の中へ入れ込むのは、子ども・若い親をターゲットにしている。お年寄りをどうこうという問題ではない。

(委員)

将来的に今のうちに準備することで、少しでも自分の力で食べることができるように教育することはできる。

(会長)

今の意見に繋がるかどうかはわからないが、今幼稚園へ釜を持って行き、ご飯を炊いて食べるプログラムで頑張っている。

作ったものを黙って食べるだけでは教育にはならないため、子どもにご飯を炊かせている。自分でご飯を作る子どもにして欲しいといつも園長先生に話している。幼稚園の子どもでもできるものである。

ある幼稚園児が、家庭においてもご飯を炊くようになり、同じ敷地の中で別々に暮らしているおじいちゃんおばあちゃんにもご飯を食べさせてあげたいといい出し、今まで折り合いが悪かったおじいちゃんおばあちゃんと毎晩一緒にご飯を食べるようになった。



子どもに対する食育が、おじいちゃんおばあちゃんの正しい食べ方に繋がった。今まで別々に食事をしていると、品数も少なく簡単な食生活であったが、品数も増え正しい食生活に繋がった。

高齢者に直接施さなくても、子どもに食育をすることで、結果として家族全体で正しい食事ができることになる。

そのような視点があってもいいのではないかと、先ほどの話を聞きながら感じた。

高齢者問題は大事ではあるが難しい。検討できれば検討して欲しい。

(委員)

素案P30の「この時期に大切にしたいこと」の★印の1つに「豊かな人生経験の中で得た「食」に関する知識を次世代へ伝えていきましょう」というのがすべてなのかと思うが、何かひとつ入れてもらいたい。

「老々介護」という言葉がある。おじいちゃんが倒れ、介護していたおばあちゃんと2人して寝たきりになるような所に、配食へ行き安否確認を行うというのは大変ありがたいことだと行政的には思う。

ホントにそのようになってくると哀れな状況である。他にお元気なお年よりもたくさんおられるので、あまり哀れなことばかりを述べるのもいかがものかと思う。なかなか難しいところであるので判断してもらえればと思う。

(会長)

高齢者問題をあまり積極的にどこも取り上げてはいないが、だから宝塚市もしないといわなくても良いかもしれない。

取り込めれば工夫してみたい。

(委員)

素案 P28、P44、P45について

この素案を見渡してみると、市民全体というのが食育というと小さな子どもか高齢者にターゲットがあるように感じる。

中高生のための食育を謳って欲しい。

中高生は、コンビニの食事を摂っていることが多い。

また、調理人の半分は男性であることからわかるように、調理に興味を持っている子どもが多い。興味を持っている中高生に、ケーキ等ではなく、プロ的な料理教室の開催をしてもらいたい。そのような料理を作りたいところもあると考える。

保護者抜きの教室ならば、喜んで参加すると思う。

思春期の部分や伝統料理の所へそのような点に目を向けて、「親抜きの料理教室の開催」のようなものを素案に入れて欲しい。

(会長)

「思春期講座」というネーミングは若者はうれしい言葉ではないと考える。「高校生」と言うような言い方も方が良いかもしれない。

できればいろいろなことをしてもらう方が良いので、謳えたら謳って欲しい。謳いたくないのであれば次の原案どうも一度出してもらい、最終的にはこの委員会決定の方が上位にあるので、最後は盛り込むべきか多数決で決めた

いと思う。

(委員)

食育推進基本本は和食を推進しようということではないのですよね。

私はパンの組合の代表でもあるが、パンという文字は、素案の最後のページにしか入っていない。

パンはどのような位置づけになるのか。

パンをどこかへ入れられたらと考える。

(会長)

今まで50年間お金をかけてパンを推進してきた。パンを推進しなくても、しっかり食べている。県民の半分はパンである。これ以上推進しなくてもいいと考える。

パンがダメと言ってっていないが、狙いは、地産地消という言葉が示すようにできるだけ地元産の物を食べて欲しいというのが国の願い。

それは食糧問題の解決、健康問題の解決と心の問題の解決につながるからである。

(委員)

思春期の料理教室のことは、具体的な取り組みに書いてもらえればよいと考える。

(会長)

部分的な言葉遣いの提案はいただいているが、目次はこれで良いか。

言葉尻を追っかけていると、全体像を見失うため、大枠を再検討して欲しい。

(委員)

用語説明は、後ろに記載されている。わざわざ繰るよりも素案の中に散りばめてもよいと考える。そのページに書くほうがわかりやすい。

(事務局)

その点については、素案策定中にも検討してきたが、文中に入れてしまうと字が小さくなるというような考え方や、宝塚市の他の計画でも、用語説明という形にされているというようなことから、このような形に提案させていただいた。

予算の関係もあり、フルカラーというのも難しいが、より読みやすい方法を検討いたします。

(委員)

フルカラーにする必要はない。

(委員)

市民全員に配布するのか。

(事務局)

全員に配布するわけではない。より読みやすい方法を検討いたします。

(委員)

素案P40について

現状と課題に、高齢化の増加が入るのではないか

(会長)

全体として、宝塚の食育推進計画に高齢を視野の中に入れるかどうかというお話だと思うが、他の市町はあまり高齢者のことは入れていない。

正しい食べ方ができていない高齢者は多い。それを入れるかどうかである。

(委員)

何か検討して欲しい。

(委員)

素案P67 7章の食育に関する事業については、どのあたりまで印刷に盛り込まれるのか。簡略化した形で載せるのか。

(会長)

前回の資料は、現在の部所で「食」「農」「健康」に関係している事業の一覧になる。それが必ず食育に関する事業と言えるかは別である。

その中から明らかに食育に係わる事業が入ってくると考える。

(事務局)

前回の資料のとおり載せようとは考えていない。来年度、予算のかたまっている中で、食育に関する事業をもう一度精査し、概要化したものを載せようと考えている。

(委員)

同じような事業があるときは、まとめてもらっても良いと思う。

(会長)

必ずしも予算の裏づけがなくても、将来的に取り組んだ方がよさそうな事業は提案いただいたらと思う。

いろんな予定を盛り込み、順次市役所の方で予算取りし、現実に映していけば良いと考える。

今回は、部分的なものではなく、素案の修正を出していただく。

全体を見るとまた全体像が見えると思う。多くの回数はないが、是非他の市町にない面白い計画ができればと考えているので、ご協力いただきたい。

時間になりましたので、今後のスケジュールについて確認と調整を行いたいと思います。

現状把握をしないままの提案型の計画になっている。本来は解決型の計画になっているのが望ましいが、その手続きができていないため、素案P7の第3章に書かれてある内容も必ずしも問題把握のデータにはなっていない。

例えば、「食生活」の柱立て中での宝塚での問題は何か。委員から提示しても良いと考える。

ここでは記載されていること以外に広範囲なことがあるかもしれない。主だった問題を、素案P15の「食を取り巻く課題」に整理し、この問題を解決するのがこの計画であるという流れで、どのような事業を組むかという結論にまでうまく流れれば良いと考える。

宝塚市民の食生活上の問題は、食育の意識が足りないからではないと思う。食生活上の問題があると思う。子どもが正しい食べ方をしているのか、親が正しい食べ方を教えているのか、もう一度考えてもらいたい。

(委員)

素案P15の「食を取り巻く課題」の6つめに「食糧自給率低下と食品廃棄増加」、の食品廃棄に関して述べさせていただくと、給食の残渣率を実態調査という意味で盛り込み、それを改善するという方向性が給食においては1つ出てくるのではないかと思う。

給食ばかり、目の敵にしているが、実際我々は給食を目にすることは無い。子どもたちが何を使って食べているのかも知らない。そのようなことを把握するため、近所の子どもに資料をもらっている。

そのようなことが見えていない人が集まりこのような話をするのも良くないのではないかと考える。

(会長)

残渣率については、市全体の統計でなくても、サンプル的にどこかの学校の実態でも良いと思う。

使わせてもらえるデーターがあるのであれば、名前を伏せた上で使わせてもらえば良いと考える。

(委員)

残渣率は学校トータルで行っていると思う。学年ごとでは出していないと思う。中学1年生は、たくさん食べるが、中学3年生の女子になると給食を極端に食べない。学校全体で残渣率のことを議論しても、学年ごとで細かいデータをとらないとならないと思う。難しい問題である。

(委員)

ある学校のあるクラスでは、「いただきます」をする前に、先に食べれないものを返しに行くということがみられた。また残っているおかずを、おかわりしたい生徒が食べていた。

そのクラスに関しては、正式に残す残さないは意味がなかった。食べる生徒は食べ、食べない生徒は食べないので、残渣はあってもなくても統計は取れない。

(会長)

近似値として把握するのは良いと思う。

この会議はあと2回となった。

パブリックコメントでもらった意見を調整して、最後にまとめる形となる。  
このパブリックコメントがでた後は、あまり大きな修正はできなくなる。

それまでに積極的に意見をいただきたい。

12月17日は思い切って意見をいただきたい。

今回赤字で修正したものは、次回の素案に盛り込む予定である。

(委員)

ぎりぎりに資料等をもらっても、きっちり読み込む時間がない。事務局は早めに委員に郵送していただきたい。

次回の会議で積極的に意見が述べられるように、他の人の意見を知っておきたいため、第1回会議同様、各委員の意見を事務局で、取りまとめてもらいたい。

(事務局)

お互いの出された意見を共有し、次回の会議に自分の意見をもって臨みたいという意図であれば、事務局の回答に関しては、関係課と検討と図っているため、時間的に余裕がないため、事務局の回答は関係なしに、各委員からこのような意見がだされているという情報提供をすることは可能である。

10月末までに、意見をいただき、生の意見のまま一覧にして、配布させていただきます。

第4回会議は、12月17日(金) 14時から 市役所3階 3-3会議室。  
最終回第5回は平成23年2月17日(木) 会場は未定。